

審議会等の会議の記録

会議の名称	第2回伊勢崎市地球温暖化対策市民協議会
開催日時	令和4年10月7日(金) 午前10時00分から午前11時00分まで
開催場所	清掃リサイクルセンター21 管理棟3階大会議室
出席者氏名	(委員) 松島会長、神部副会長、都丸委員、黒津委員、齋藤委員、 篠崎委員、渋谷委員、高橋委員 (事務局) 田部井環境部長、下城環境部副部長(兼)環境政策課長、 糸井環境企画係長、輿石係長代理、横堀主査
傍聴人数	2人
会議の議題	市民への環境教育の推進
会議資料の内容	委員からの情報提供資料
会議における議事の経過及び発言の要旨	1 開会 2 議題 (1) 報告事項 ・新伊勢崎駅の駐輪場の整備状況 事務局：新伊勢崎駅の無料駐輪場は351台分整備されている。 (2) 協議事項 ・市民への環境教育の推進 事務局：「市民への環境教育の推進」をテーマとし、子どもたちへ効果的な環境教育を実施するにあたりご意見を賜りたい。 会長：義務教育くらいまでの子どもや保護者も含めた環境教育の推進について忌憚のないご意見をお願いします。 委員：市役所の担当窓口には環境に関するパンフレットなどが設置されているが、誰もが通るところ、人が集まる場所に設置するとよい。

こどもエコクラブの県内の状況としては家族、友達、学校、公民館単位などでの加入者が60クラブ1063名いる。伊勢崎市は加入しているクラブが少ない。県が実施している子どもたちへの学習の機会なのでPRして活用していけるとよい。県のエコムーブ号（動く環境教室）も学校からの申し込みが他市と比べると少ないので、もっと活用されるとよい。

委員：「尾瀬学校」についても伊勢崎市の参加率が悪い。学校へ促す方法を考えた方がよい。

委員：学校の中でごみの分別やごみの削減などできることから実践しながら学ぶことが大切。子どもが実体験から想像していく教育ができればよい。プラスチックストーリーという映画がある。アメリカの子どもたちが海をきれいにしようと自分たちで発見しながらやっていく。同世代の子どもたちから刺激を受けると思う。

委員：まず先生達がどのように思っているか。SDGsが学校教育の中に組み込まれているが、先生達がどこまで理解し受け入れられるか、目を向けて発展的に指導ができるかが大事。渋川・沼田市は先生達の学ぼうとする動きが活発だが、比較的伊勢崎市では学ぼうとする動きが少ないと感じる。

委員：幼少期の早くから始めると効果が高いと思う。小学校ではカリキュラムが組まれていて難しいため、幼稚園に入る前の柔軟な時期から取り組めるとよいのではないかな。

委員：県の派遣で、小学校入学前の子どもたちへ、ごみの分別を紙芝居やゲームを通し啓発を行ったことがある。よく理解してくれるので、伊勢崎市でも実施したらよいのではないかな。

会長：委員が学ぶことが必要。このような協議会があり、皆さん意識が高いので、出前講座などプログラムを作って実践するというのが大切ではないかな。

委員：市外で子どもたちの自然教育をしているテレビ番組が以前あった。太田市には環境クラブなどがあり様々な分野で活動している。市内に限らなくてもよいが、人材を掘り起こして、学校教育では先生の日も養ってあげたらよい。エコムーブ号などの素材も掘り起こして広げていければよい。

会長：省エネルギーセンターの省エネフォーラムという出前講座を市内小学校でも行っていた。環境に配慮した家庭と普通の家庭の差をワークシートを使用し子どもたちに調べてもらう。そういった素材も多いので、我々

が出前講座の講師となって出ていける仕組みができる
とよい。幼稚園や保育園でも絵が多いとよい啓発になる。

委員：前橋市の小学校の林間学校は専門の講師を受け入れている。先生に森の体験まで任せることは大変。自然に触れさせて何かを吸収させるには小学校低学年まで。もっと小さい子が理想ではある。環境教育でどういう人間を育てたいか。自ら考える訓練をしていないと自分の意見が言えない。マニュアルがないと動けない。何かあっても対応できる態勢でより深く経験させる。危ないかどうかを自分で考えられる人間を育てたいなど、ゴール設定をして、地域、学校を巻き込んで、人材を掘り起こし、それぞれがパートを受け持ってやりたい。

会長：カーボンニュートラルへ向けて、時間がないためどうしていくか。紙芝居、出前講座などペアを組んで実践としてやっていきたいというのが皆さんの意見とすると感じる。

委員：関わりのある小学校に環境学習をカリキュラムに取り入れられないか聞いた時があった。この時は入れ込んでもらうに至らなかった。

会長：今の教育現場でも、総合学習など取り組める場所や空間はあると思う。

委員：この協議会ほどの程度、どの対象へ対して取り組めるものか。

会長：事務局から本協議会の役割の説明を再度お願いしたい。

事務局：伊勢崎市地球温暖化対策実行計画を策定している中で伊勢崎市民や市の施策を対象に効果的な施策について広く意見を伺う場である。

会長：せっかく市民、有識者と委員が集まっているのもう少し発展させたい。環境審議会との連携や環境指導員の会議の場でオブザーバーとして参加するなど色々できるのではないか。

委員：環境審議会は開催されていないが、目標設定に対して国や県の動向を注視しているところだと認識している。

会長：俯瞰する組織が我々でもよいのではないかとも思う。もう少し発展させて実践につなげたい。

	<p>委員：民間事業者としては取り組まざるを得ない。年4%ずつの削減とその目標を提出しなければならない。伊勢崎市でも自動車関連は特に煽りを受けており、国、県の施策がとは言っていない。自分たちで何をして削減ができるか、できない時はどうやってエネルギーを購入するかと動いている。ある事業者は非化石証書を買ったりと、思った以上に事業者は進んでいる。進まざるを得ない。事業者がやればよいというだけでなく個人とした時にどうしていくか。</p> <p>会長：2050年の世界的に掲げた公約で、事業者は生き残るためにどうしたらよいかという段階。適合しないものが売れない。</p> <p>委員：モデル地区があると思うが、実際に市町村が動いている。成功例はその地域に合ったものだが、できることは身近にあると感じる。まず行動に移していかないといけない。市の出前講座では熱意が伝わらない。ある市ではごみの分別ができていない地域に職員が出向いて指導し、その後も状況を把握してできるまで指導している。</p> <p>会長：ごみの分別に関しては地区によってすでに取り組んでいる。伊勢崎市でできること、伊勢崎市でないとできないことを課題としたい。</p> <p>委員：市のホームページをもっと見やすくし、環境について目に留まるとよいと思う。</p> <p>委員：この協議会で提言するものか、形にして行動していくのか。目的・対象を持ってみんなでベクトルを一致させないといけないと思う。学校はカリキュラムがいっぱいで難しい。伊勢崎市でもやっているものはあり、仕組みもある。</p> <p>会長：本協議会の設置目的は事務局からあったとおり。次にどのように進めるかまた話し合いをしたい。</p> <p>3 その他 ・委員2名より情報提供</p> <p>4 閉会</p>
--	---